

こぶたは緑の海で 大きくなった

— 『海ふたのすむ海がある』(フレーベル館 1971年)より —

後藤竜二

海ふたのすむ海がある

〈もくじ〉

- 1 風かぜとかざぐるまと赤あかいかさ
- 2 いっぱいあるのになんにもない
- 3 こぶたは緑みどりの海うみで大きくおおなった
- 4 電話でんわがま夜中よなかに鳴りだした
- 5 満月まんげつの夜よるの動物園どうぶつえん
- 6 白いサバクしろはすなだらけ
- 7 月つきがしずんで陽ひがのぼる

自分を引き連れて威張り歩く乱暴者のゴンタ。不思議な転校生ノンノが転校してきてからというもの、クラスの雰囲気が変わり、自分たちも言うことを聞かなくなってきた面白くない。学校を休んで、捨てた鍵でダンプをすっとばす。荷台には、ちりかけの赤いケシの花一輪、死んだメダカ三匹、胃腸薬三粒、腐った肉まん二つ、鼻の欠けたこぶたのマスコット一個、そして、ピカピカの出刃包丁……。パトカーに追われてやけになったゴンタはハンドルから手を離し、橋から川へ。ゴンタはコトンと気絶した――。